

# アートって、もっと身近。

アートは、意外と身近なところにあります。まちや公園、暮らしを彩るデザインなど、私たちの生活に息づいています。見るだけでなく、作ったり、考えたり、話したりと、その出会い方も多彩です。

今回は、県内で広がるさまざまな取り組みを通じて、身近なアートの魅力を紹介します。アートとの新しい出会いを見つけてみませんか。



県庁舎アートサイトの作品(正面玄関)



中之条ビエンナーレ総合ディレクター  
やま しげ たくお  
山重 徹夫さん

広島県出身、群馬県在住。中之条町で隔年開催される国際現代芸術祭の中之条ビエンナーレを立ち上げ、総合ディレクターを務める。群馬県を拠点に地域特性を生かした「アートプロジェクト」や「プランディング」などに取り組む。第76回文化庁芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞

## 楽しみ方は自由。だから、アートは面白い

中之条ビエンナーレ総合ディレクターであり、群馬パーセントフォーアート推進会議委員を務める山重さんに、アートを気軽に楽しむためのヒントを聞きました。

### 正解は一つではない

アートと聞くと敷居が高いと感じるかもしれませんが、難しく考える必要はありません。作品には決まった見方や正解はなく、作家の意図や専門家の解説だけが答えではありません。同じ作品を見ても、人それぞれ感じ方は違います。その違いこそが、アートの面白さ。なんか面白い。そんな気持ちを大切に、作品に触れてみてください。

### 自分に合った楽しみ方で

作品を見るだけが、アートとの関わり方ではありません。作家と話したり、自分で作ってみたり、ボランティアとして関わったりと、楽しみ方はいろいろあります。中之条ビエンナーレでも、そうした多様な関わり方を通じて、誰もが気軽にアートに親しめる場所づくりを大切にしてきました。ポイントは、自分に合った関わり方で楽しむこと。そうすることで、アートは身近なものになると思います。

▼山重さんがディレクターを務めた県庁舎アートサイト※ ※県庁舎を活用した、県内で活動するアーティストの展覧会(6年3月実施)



## 歩いて出会う

### 第一回 前橋国際芸術祭 2026

9月19日(土)から12月20日(日)まで前橋市中心市街地を舞台に開催される歩いて楽しむ芸術祭です。「まちなか」を巡りながら、現代アートや建築、音楽など、多彩な表現を楽しむことができます。

▼詳しくはこちら



前橋市が掲げるまちづくりビジョン「めぶく」。その歩みの先に誕生する前橋国際芸術祭では、国内外70組のアーティストが、前橋の歴史や暮らし、人々の営みから着想を得た作品を展示します。ぜひ前橋で新しい景色との出会いをお楽しみください。

【前橋国際芸術祭2026実行委員会】

### 県庁前通り社会実験 アートプロジェクト

10月23日(金)から25日(日)まで、社会実験により歩行者中心の空間となる県庁前通りでアートイベントを開催。「まちなか」で文化芸術に触れながら、いつもと違う風景を楽しんでみませんか。



## 発想に出会う

### 空想フォーラム

県では「こんなことができたらいいな」という自由な発想から新しい価値や表現を生み出すヒントを探る「空想フォーラム」を開催しています。

第1回は映画監督の手塚眞氏らを迎え「空想とは何か」をテーマに、空想の可能性を議論。第2回はアーティストの増田セバスチャン氏ら、国内外で活躍するゲストを迎え「空想を形にする」をテーマに、アイデアを実現する過程について語り合いました。

第3回は「空想をビジネスにする」をテーマに、今年度中の開催を予定しています。



第2回開催の様子(8月22日)

第1回の様子を動画でご覧いただけます。第2回も後日公開予定です。ぜひご覧ください▶



## 交流して出会う

### 地域で広がるアート活動

県では、アート支援団体補助金により、アートを活用した地域活性化に取り組む団体を支援しています。

#### 【シロオニスタジオ】

藤岡市鬼石を拠点とし、海外のアーティストが滞在しながら制作できる場を提供しています。また「ワークショップ」やアート教室を通して、誰もが気軽にアートに親しめる場をつくっています。



「ワークショップ」の様子

## 参加して出会う

### 敷島公園新水泳場 仮囲いデザイン

建て替え工事中の「県立敷島公園新水泳場」の仮囲いをキャンバスとしたアートコンテストを開催し、県民参加型の作品「湯けむりの干渉帯」が最優秀賞を受賞しました。今後は湯けむりをイメージした白色の半透明シールを貼る「ワークショップ」を通じて、県民の皆さんと一緒に作品を作りあげていきます。

#### 【仮囲いアートワークショップ】

日 10月以降実施予定

所 県立敷島公園(前橋市敷島町)



最優秀賞 「湯けむりの干渉帯」完成イメージ

工事中の仮囲いを、人と人をつなぐ「まちの屏風」として捉え直したいと考えました。群馬の湯けむりと敷島周辺の松をモチーフに、地域の皆さんと世界に一つだけの風景を作ります。

水泳場完成までの期間限定の風景を、家族や友人と一緒にぜひお楽しみください。

【最優秀賞受賞者】

## 地域と出会う

### 地域を再発見するアートプロジェクト

アーティスト・金仁淑さんをディレクターに迎え、四ツ葉学園中等教育学校の生徒たちが、カメラを使って地域の多文化に触れる「ワークショップ」を実施しました。地域の人々へのインタビューや写真撮影を通じて、多様な価値観への理解を深めました。

この「ワークショップ」をもとに金さんが制作した作品は、9年2月に県立近代美術館で展示する予定です。



「ワークショップ」で教える金さん(右)

写真を撮る行為を通じて、異なる文化や背景を持つ人々と隣人として出逢い、考え、関わり、伝える過程を体験してほしいと考えました。

展覧会では「ワークショップ」を通じて地域の多文化を見つめた時間を追体験してもらい、文化や背景の違いを超えて向き合うことについて、共に考えたいと思います。

【金仁淑さん】

アートという視点から文化などについて学ぶのは初めての体験で、とても興味深かったです。

県内在住のさまざまな国籍の人と交流する活動は緊張しましたが、多様な考え方に気づくことができ、今後の自信につながるとても良い経験となりました。

【ワークショップに参加した生徒】

## 探して出会う

### デザイン/アートワークス

県では、アート・デザインの活用事例やクリエイターを紹介するデータベースを公開。アートやデザインを取り入れるきっかけづくりを進めています。



▲詳しくはこちら



立体駐車場「アートパーク高崎東」の西側壁画

## アートを通じて、魅力ある群馬へ

県では、欧米発祥の「1% for art」の考え方を取り入れ、県予算の一定割合をアート振興に生かすことを定めた全国初の「群馬パーセントフォーアート推進条例」を制定しました。

誰もが身近な場所で、アートを楽しめる環境づくりを進めることで、アートを通じた人と地域のつながりが育まれます。これからも多彩な人材が数多く生まれる場所として地域の魅力を高め、人々を惹きつける群馬県であり続けることを目指していきます。

※公共工事などの費用の1%を、その建築物や空間を装飾するアートのために支出しようという考え方



SUBARU と連携した展覧会の作品